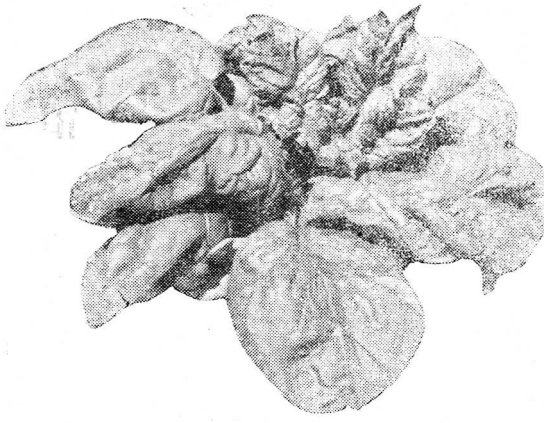


ほうれんそう栽培の要點

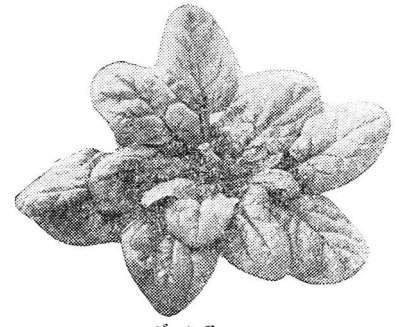
最近のように食生活が安定して来ると量よりも質、栄養の高いものへと関心がたかまり、これに伴ない、ほうれんそう等のようにビタミン給源の高い野菜の需要が、ほろかも年中要求されるようになって来た。このことは再三述べている処であるが、何といつてもほうれんそうを営利的に栽培するに当つては、夏季の出荷が問題になる。春の栽培は果菜等の前作として一応重要性はあるが、この時期に二、三月から引続いて内地ものの移入が幅をきかし、昨春の如く三月末において一籠二、三〇〇円程度で取引されていた事を見ても価格に望みを託し得ない。しかし道内へ消費するものは春先であるから、市場の状況を見て早期に出荷することが大切である。この場合、株の太りと抽莖が相関する事を念頭に、各品種の特性をわきまえて適合した品種をえらぶことが大切である。

春播の一般的品種としては、ホーランドア、ピロフレ、プリックリー・ウインタール、ノーベル等である。ホーランドア 極早生で葉の幅広く、先端尖り、縮みの少い市場用種である。ピロフレ 前種より少し生育がおそく、抽莖もおそい。厚肉の皺の少い尖り葉、立性で大株となり作り易く、一名市場ほうれんそうともいわれ最も栽培の多い種類である。プリックリー・ウインタール 葉に凹味のある長三角形の大株となる。葉肉は薄く、葉は平滑で光沢があり、葉柄は長い。生育は早い。越冬性に富む。春播とすると抽莖はやや早い方である。



見事に生育したバイキング

ルノイベ 葉は幅広く、円形に近く、厚みのある大きな葉で、濃緑、縮皺に富み葉柄短い。抽莖も比較的耐暑性もあり春夏播として、市場家庭菜園用品種である。次に夏播種であるが、夏は高温で日照が長い。従つて日長感度の低い品種が選ばれる。ノーベル、バイキング、ノーベル、オプ・デンマークは耐暑性にも富み日長の感度も低い。なおミンスタールは日長感度は低い、耐暑性に富むので、肥沃地でとり入れられるようになって来た。



ピロフレ

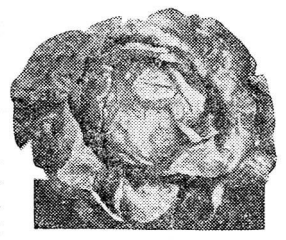
日長の感度度というものは、ミンスタールを秋播した場合、大体当地では八月の下旬以降に播種したものは翌春まで抽莖しない。ところが春播したものは四月より五月と抽莖が早くなる。これは日長(昼間の時間)が影響するためで、日長時間が十二時間以上となると抽莖が始まり、温度が高くなるにつれ抽莖し易くなる。それより五月、六月、更に七月と抽莖が早まるわけで、品種により抽莖の程度が異なるのは日長の感度度が異なるからである。

バイキング 弊社が始めて輸入紹介して以来益々好評を得ている新種である。葉はノーベルに似て濃緑で縮皺少く、太り早く、莖は長く立性、春播すると実に見事な巨大株となり、抽莖はキング・オブ・デンマークに次いでおそく、春夏播用の最新優良種である。キング・オブ・デンマーク 本種は夏播用として最も耐暑性があり、抽莖は極めておそく、道内での採種は不可能な古くから著名な優良種である。葉は幅広くやや縮皺があり濃緑、葉柄は長く横に広がり、品質も極めて良く、収量も最も多い品種である。

夏播は発芽が落ちるから、種は乾燥した場所に貯えて置くことは勿論大切で、播種前ウスプルン、〇〇〇倍液に一時時間浸し、水洗して風呂の残湯に一昼夜つけ、水を切つて庭に拡げおくと二、三日位で芽を切つて来るからこれを播くと発芽も整一となる。

夏播は単作するより間作する方が良く、その点バイキングのように立性のもを葱頭の間作とするのも一方法である。なお栽培密度であるがあまりこみすぎると夏季はべた病等が出易いが、水分が適度にある肥沃地では密植した方が伸長良く、灌水を考へるの必要である。ペト予防に二回ダイセンまたは四斗式ボルドーを撒布すると良い。

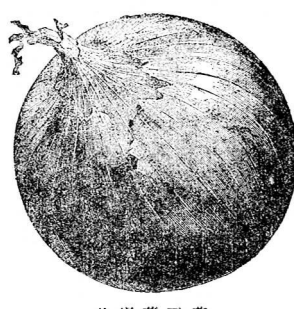
ちしやの品種と利用



サラダ用蔬菜として最も広く利用されてゐる。各種ビタミン含量の多い野菜で、莖葉に乳液あり、苦味あるも、これが鎮静に効あるといわれる。ウエアヘッド 葉は濃緑で皺少く、球のしまりはあまり良くない。極早生で年間を通じて栽培出来る。メイキング 葉は扇状で濃緑、欠刻は無い。葉縁に僅に赤味がかかる。球は

葱・たまねぎのつじの防ぎ方

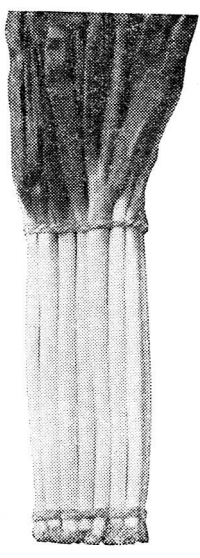
最近ねぎうじの被害が拡大し、東北方面にも見られるようになった。防ぎ方はホリドールを使用するとある程度効果が認められている。なおホリドールは劇薬であるから、使用に当つては普及員の指導を受け充分注意して取扱われたい。



札幌黄玉葱

ホリドールは千倍にうすめ、「じよろ」で五月下旬より七月十日おきに三、四回育苗に撒布する。薬液が充分土中にしみ込むよう雨後をえらび坪当二升以上撒布する。

葱の品種特性 石倉一本大葱 千住葱の改良種、生育旺盛で軟白部一尺五寸に達し秋期の霜にも強い品質優良な一年葱。飽海一本太葱 山形県飽海原産で、太りが早く収量の多い優良な一本太葱で越冬性は劣る。加賀一本太葱 品質も良く最も普及している二年葱である。札幌根葱 最も丈夫で作り易い二年葱の有名種。



石倉一本太葱



五寸人参

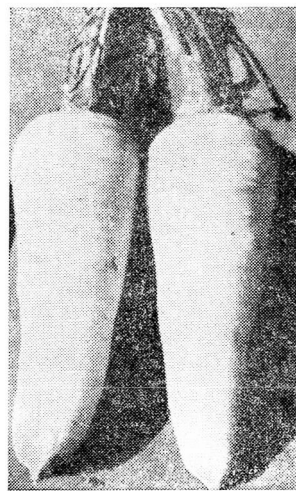
人参栽培上の諸問題

品種 道産人参の東京関西市場向として出荷される量は相当なもので、昭和二十四年の統計を見ても東京市場年総入荷量の約二割を占めている。出荷量の大部分が九〜一〇月の内地ものの端境期に当り、品種は五寸人参が大部分である。しかも五寸人参としては輸入種子（レッドゴア・チャンテネー）が大部分使用されている。輸入種子は生育が早く、形が揃い色も良く、市場の受けが良いためである。しかし人参の早出が盛んなため、早播しすぎて輸入五寸の抽薹が問題となる。この点道産五寸は早播しても抽薹はそれほど問題にならないが、葉枯病に弱い欠点があり、特に色沢の良い早生系に甚だしい。

現在の耐病性系統は色がおち少し晩くなっている。優良系統の選抜育成が要求されるわけである。極早出のものでも、地場消費地に向けるには大型五寸系か、土質の良い処では鮮紅太を作る方が収量も多く、作り易い。なお家畜用を兼ねて作る場合は札幌太が良く病気の心配は全くない。

病害対策 ネマトードⅡ人参の幼根の先端にコブが出来て十分伸長せず畸形となるものや、また牛蒡の幼根が多数に分岐して売物にならぬようなことはしばしば見受けられる。これはネマトード（線虫）の被害によるもので、近年各地に被害が甚だしくなつたようである。この線虫はその種類が多く甜菜線虫病（甜菜、ホーレン草、人参十字科作物、豆類、大麦、小麦を侵す）莖線虫病（燕麦、ライ麦、ルーサン、玉葱、馬鈴薯を侵す）根瘤線虫病（殆んど各種の作物を侵す）葉線虫病（苜蓿）等の種類がある。何分にも土中に分布するので防除が困難である。発病地はその面積の大小により適宜の方法をとる。それには、客土、フオルマリン液消毒、土地の肥培、深耕等があるが実際には行い難く、二〜三年の輪栽を行い発生を軽減する以外考えられない。

葉枯病Ⅱ人参の生育旺盛な七月下旬より発生し始め、八月中下旬にはげしくなる。始め葉に褐色の小斑点が出来、葉柄に及び、葉の縁が上面に捲き上つて遂に枯れてしまう。甚だしい時は葉全部が枯れたようになり、人参の太りが停滞り、矮小な人参しか収穫出来なくなる。なお特に早天の年式に発病が甚だしい。防除はなかなか厄介でポルトルの四斗式を二〜三回撒布すること、前にも述べたように品種の選択に注意して栽培することが大切である。



大型五寸人参

人参の品種特性

品種名	熟期	形状	根の長さ	色沢	収量	備考
早生五寸	早	円錐丸	短	濃橙	中	早播可能 耐病性劣る
紅芯五寸	早	円錐丸	短	濃橙	中	早出用輸入種
大型五寸	中	稍長円錐	中長	濃橙	多	耐病性に富み 多収
七寸人参	晩	長円錐	中長	濃橙	多	品質優良
鮮紅太	晩	長太形	大長	濃橙	多	品質優良
札幌太	晩	長太形	大長	濃橙	多	品質優良

「ほう」の品種特性

牛蒡の適地は深層の耕土で、沖積層の砂培土または洪積層の火山灰土に良品が生産される。播種期は普通春蒔とするが最近六月出荷をねらつて八月下旬に播種されている。牛蒡は連作を嫌うから三〜五年輪作することが安全といわれている。主なる品種は左記の通りで寒地では早生系の需要は極めて少ないので省略する。

滝野川大長牛蒡 全国的に有名な品種で基部膨れその下が細く中間から肥るが基部あまり太くならない。長さは耕土の深さにもよるが普通三〜四尺である。肉質は極めて優れている。

常盤大長牛蒡 前種の系統であるが根身稍短かく、胴張りよく形状が整っている。長大に過ぎず収穫輸送に傷み少なく近年各地で栽培が増加している。

札幌大長牛蒡 葉部長の改良種で肉質緊り性強健栽培容易である。

春蒔の大根・かぶ

春蒔する大根かぶは低温期に播種するものであるから、トウ立ちの少ない左記の品種を選ぶべきである。トウ立ちの多くは地温の低い頃に早蒔した場合、または乾燥及び肥料不足等のため稚苗の生育不良が主なる原因となつている。殊にみに注意を要する。

時無大根は他品種よりも低温感応が鈍いので、特に花知らずの名称をつけられている程で、春蒔としては最も安全な品種である。

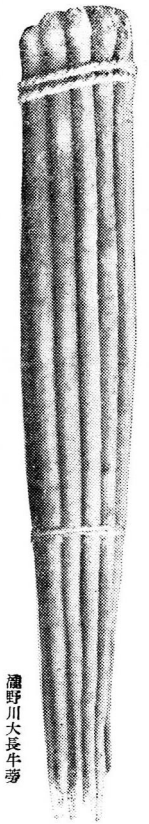
みの早生大根は生育早く収量が多いので近年春蒔用品種も育成されているが、時無大根よりも約二カ月（関東方面では時無三月、みの早生五月上旬）晩く播種されているから札幌附近では六月以降が安全である。

二十日大根は暑季を除き随時播種出来るが生育期間が短い、一時に蒔かず数回に分けるがよい。

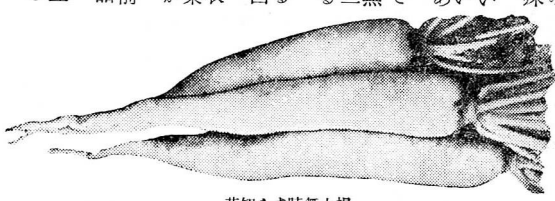
金町時無小かぶは播種後四〇日位で採取出来るが、早出しのものには間に合いません。付として出荷される。肥大してもトウ立ちが晩く葉茎の短い丸型形の品種である。

寄店かぶは白夏かぶともいい、扁円で前種よりも大きい。寒地に広く栽培される品種である。

札幌紫かぶは春蒔としても比較的下ウ立ちが晩く、首冠部が紫色下半部の白い品質のよいや、扁円状の大きかぶである。

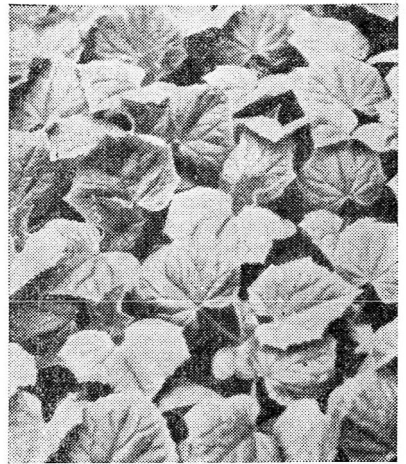


滝野川大長牛蒡



花知らず時無大根

甜瓜の寒地向としては甘露菊甜瓜南部金甜瓜は市場向家庭用に最適です。



甜瓜の床内育苗

甜瓜主要品種の特性一覽

品種名	形状	刺状	色沢	品質	収量	備考
聖護院胡瓜	細長	黒少	濃緑	上	多	育苗露地栽培(直播可)
加賀節成	長円筒	黒少	濃緑	上	多	〃
刈羽	中円筒	黒少	濃緑	中	多	〃
四葉	首細極長	白多	濃緑	上	中	〃
早生三尺	余溝多	白中	濃緑	中	中多	〃
立秋	やや首細	白中	濃緑	上	中多	〃
聖護院合落	円筒	白中	濃緑	上	中多	〃
細長	細長	黒少	濃緑	上	多	草勢強く耐病性あり短日操作用で着花増す

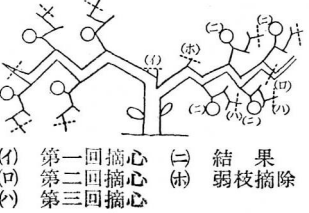
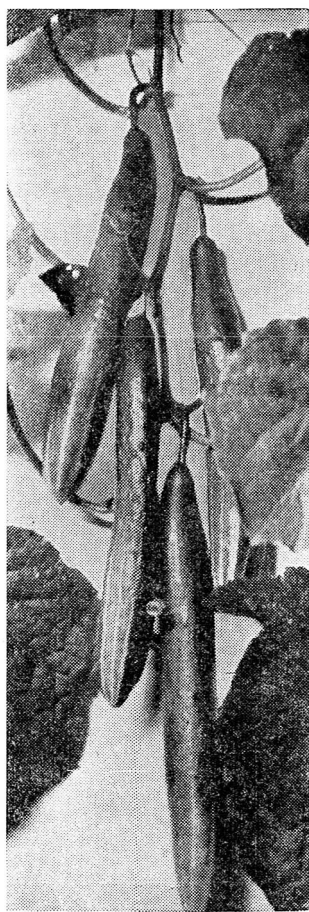
甜瓜の餘蒔栽培

移植甜瓜は盛夏の候に盛りとなり、秋にはなりも品物もおちるので、この時期に品質の良い胡瓜を生産するには、四葉、早生三尺、立秋、地這等の余蒔品種を使つて直播するは、四葉、早生三尺の品種は比較的耐暑性があり、主枝上に節成とはならない。これらの伸長旺盛で、これに良く着果し、病気にも強く作り易い。子播蒔は六月から七月中旬頃まで、蒔いても良いので、七月に入つてからの直播は、この時期が温度高く乾燥するので、発芽が良くなく、地蚕の害もひどくて、種苗の管理は容易でない。またベトにも感染し易いから、練球をこしらえてこれに蒔いて、本葉二〜三枚位の時に本圃に定植する。余蒔の場合支柱は立てなくても良いが、立てない場合は敷藁して、薬剤を一〜二度多めにかける事が大切である。

甜瓜育苗の秘訣

甜瓜栽培の成否は一旦育苗技術の如何にかかっているといつて

も過言でない。甜瓜の根は比較的浅根性で、性質は脆弱で老化し易いから根が傷み易い。従つて育苗中に温度、水分、床土の通気に注意して常に新根が伸びているようにしなければならぬ。特に移植、定植の際直ちに根が活動できるようにしなければならぬ。甜瓜の育苗期間は大体四〇〜五〇日位が良く、定植適期から逆算すると四月中旬頃下種することになる。下種床は他の果菜と同様な扱で良いが、特に通気を良くするため床土は有機質を多めにする。発芽温度は三〇度Cが良く、発芽後子葉が出揃うと温度を下げ徒長を防ぎ、間引を行つて苗が充分光線を利用できるよう間隔を与えるようにする。子葉が充分展開して本葉が出始める前に第一回の移植を行う。第一回の移植は成可く多い方が良く、発芽後一週間位の時に第一回の移植は成可く多い方が良く、成可く成りも良いとされてきたが、最近では成可く床の間隔を短かくして移植回数も少い方が良いといわれている。一回の移植に少くとも五〜七日は苗の生育が遅れるといわれる。甜瓜の花芽の分化は発芽後二週間位で始まり、本葉四〜五枚の定植期で既に一五〜二〇節の花芽が分化するということなので特に育苗中の生長の停止は影響することになる。要するに定植時の植傷みを軽減できれば移植回数は少い方が良く、移植後の温度は元床より二〜三度温度が高い方が活着早く、第一回の移植の間隔は二〜三寸、翌朝子葉が良く展開し根切つていると順調で、翌朝になつても遅くとも二週間位で徐々に日光に当るようになる。甜瓜の移植は二週間位で本葉が二枚位出揃うから、この時期に第二回の移植を行う。間隔は四寸×三寸位、成可く土を落さぬように心掛ける。この頃は外気温もかなり高くなるから、活着後は努めて換気に注意して徒長を防ぐようにする。床温が充分にあれば夜間の換気も寒風の侵入を防ぐようにして行つた方が堅い丈夫な苗となる。なお道内で多く作られている加賀節成等は短日によつて花芽の分化に影響は少いが、小城、聖護院×落合等は短日によつて花芽の分化が不良にするものであるからヨシズ等の被覆物の取扱には特に注意する事が大切である。五月下旬になると外温もかなり高まり徒長し易くなるから換気に注意し、灌水もある程度加減して、定植七〜一〇日前に苗にエライチを行つて植傷みを少なく更に外気に漸次馴らして強剛な苗にする。馴化は急激に行わず夜の被覆を段々薄くして行つて最後に、昼夜外気に当てる本葉四〜五枚の時に定植する。



甜瓜甜瓜の摘心法

甜瓜、甜瓜は親蔓には結果せず、子蔓孫蔓に結果する。摘心法にはいろいろあるが一つの方法を次に図示する。

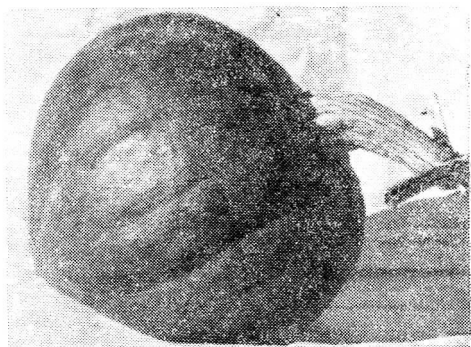
西瓜品種の特性とそのえらび方



新旭西瓜

昨年一昨年と冷害に見舞われ一部の西瓜の生産は見受けられなかった。これは勿論栽培上技術(接木栽培等)の相違にもよるが、品種の選択にもかなり影響している処が多い。従来の新大和、旭大和等は豊産で味も悪くないが比較的耐病性劣る。これにひきかえ一代交配種は樹勢が旺盛で耐病性にも優れ、昨年の冷害にも比較的好成績を挙げた畑は一代交配種を取入れ温床育苗していたところが多い。交配種として代表的な品種は新旭、旭部、新生、富研号等で、新旭は早生で花付き良く、耐病性強く生育旺盛である。果実は優美な縦縞を有し、果肉鮮紅色、甘味強く輸送にも耐える。旭部は乾燥地に適し生育極く旺盛で側枝が多い。果はやや細縞で皮極薄く、果肉濃桃色、甘味特に強く軟かく品質極上である。新生は特に耐病性を考慮して作られた品種で縞皮、外観新大和と同じであるが外皮薄く、輸送も絶対安全、果肉は濃赤色で多漿、甘味強く豊産な実用種である。

美園デリシヤ ス南瓜の特性



美園デリシヤス南瓜はデリシヤス南瓜より豊産で、一株五〜六果時に十数果収穫されるものもあり、しかも着果習性が主枝上十節〜十四節目より連続してくは二〜三節おきに着果するので、五〜六番果まで食味は全く変わらずよく充実して決してウラナリにはならぬ。

果の形状は従来のものよりやや小型で七〜八〇〇分の一〜二果着果する。瓜内外、形は肩張りの良いハート形で良く揃い、市場出荷用としても大きさが手頃なので好評を得ている。外皮は暗緑色で軟かく、肉質は澱粉質に富みいわゆるポクポク質で橙黄、甘味も多く味は良好である。

草勢はデリシヤスより少しこぶりで葉も茎も幾分小さい。本種を暖地で栽培した場合、西洋南瓜(マキシマ)属なので、着果性は変りないが、耐暑性がおち草勢は弱いようである。味の点も澱粉が少なくなるため、北海道のような食味は得られないようである。

本種の栽培に当つては、多着果性であるから、従来の栽培より幾分畦間を拡め六尺×十二尺の鞍に一株立とした方が収量が多くなる。なお本種は貯蔵力が幾分劣るようであるから、収穫に当つては傷つけないように注意して、十分完熟乾燥したものを室内に貯えれば、十二月一杯は良く貯蔵出来る。

豌豆と枝豆

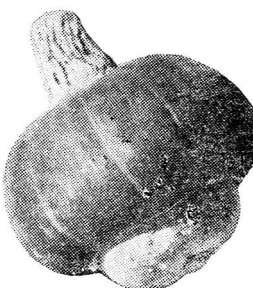
莢豌豆の極早生としては、三十日絹莢豌豆と支柱のいらぬ味の良い小莢の品種鈴成砂糖豌豆がある、これらは勿論早春に蒔くが、秋降雪前芽を切る程度に播いておくとも早く採れる。少し晩いが大莢種に赤花の仏国大莢、白花の米国大莢がある。実取用としては目黒豌豆(大莢)、アラスカ(小粒半矮性)青手無(矮性種)がある。

枝豆の早生種には青味ある小粒で極早生の小袖振枝豆、近年各地で好評の大莢で、前種に次ぐ早生の品質の最も良い奥原一号、小袖振を大粒にしたような莢付の良い大袖振枝豆がある。

有利な南瓜の早熟栽培

七月下旬〜八月にかけての南瓜は八参と同様ビタミン含量高く、給源として重要なもので、かなり需要もあり割合価格も高い。

南瓜の早熟栽培は高温時期に開花結実させるので味は充分出ないが中村早生、赤皮甘栗等が主で、美園デリシヤスも統一の出荷出来る。バターカットは(普通の洋種南瓜)小型であるが着果が良く味もまた極めて良い。



バターカット

育苗 四月中下旬温床に播種する床温は高い方が一せいに発芽して良く胡瓜に準じて移植を行う、第二期移植床は反当三坪もあると間に合

定植 五月下旬本葉五〜六枚頃本圃に定植する。植付距離は三尺×九尺〜十二尺位が良く、直播より株間をつめて早期収穫をあげた方がよい。植付が終わると紙テントを覆うかビニールトンネルとして苗を保護する。

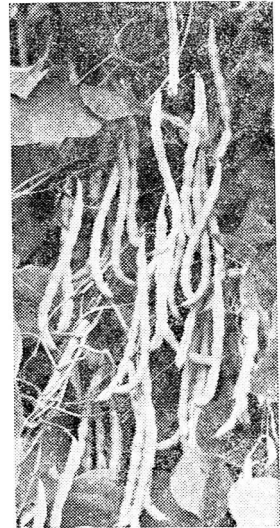
紙テントの除去 伸長の盛んなものは六月中旬位になると紙テントを上げるようになるから上に穴を開けて二三日風を入れて除去する除去後は直ちに追肥を行い土寄せを行う。

仕立法 本蔓と子蔓二本の三本仕立とする。他の子蔓孫蔓は努めて除去するようにする。南瓜は育苗栽培の場合には着花節位が下がりに成金で十二〜三節までには必ず第一番花が付く。開花の初期には雄花が早く授粉の方法がないのでホルモン処理をするのも一方法である。ホルモンはナフタリン、サクサンカリ錠を水八勺位に溶かし、ふでにふくませて、雌花の抽頭つまんべんなく塗布すれば良い。

追肥 油粕は基肥として施用した方がよいが硫酸尿素等の窒素肥料を二回位に分施すると良い。

施肥の一例

- 堆肥 二〜三〇〇貫
- 油粕 一五貫〜二〇貫
- 硫酸 八貫
- 過石 一一貫
- 加里 二貫



尺五寸菜豆

家庭用菜豆の品種

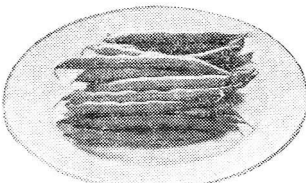
英用菜豆の家庭用品種はかなり多数のものがある。概して北海道にては莢を大きくしても傾向があるため、ある程度子実の煮食出来る品種がよるこばれている。

手無では金時、手有では金時系ゴールデンカーミン、満州里等が多いようである。

手無の金時は病気に弱く莢付は十〜十二莢で少ない。このほか優良な手無種としてマスターピース、白黒、ストリーム・ライナー、カナデアン等非常に莢付の多い品種がある。これらは草勢も強いが若もぎしなないと硬くなる欠点がある。若採りする

と優に一株五十本以上の莢を付ける。多くの軟莢種を試作した結果、金時に優る品種として挙げうるものは、ウエード、他の丸莢種のように彎曲せず草勢も強い。いずれも緑色種で一莢六粒位熟期も金時と大差ない。特に認めうる新種の一つである。

手有のものは草勢と強い、着莢数といい、尺五寸菜豆(ケンタッキー、ワシントン)に匹敵するものはない。衣笠は満州里には劣るが、かなり大莢になつても食しうる。

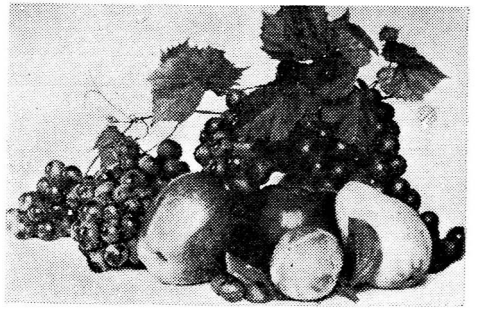


菜豆ウエード

玉蜀黍の品種について

穂の貧弱な極早生種はあるが、市場用、または家庭用を考えると見ても、早生種としてゴールデンパンタムに優る品種は今の処見当らない。ゴールデンパンタムは穂の形も良く揃い、粒列も美しく、味はとうもろこし中最も良い。種を五月始めか六月にかけてまくと秋中喰べられ、秋の味覚として忘れぬことの出来ない品種である。

秋も半ばになつて、街角でかんばし香をなげかけるともろこしの大部分はロングフェローである。本種は七、八寸から一尺もある八行種で味も品質も良い。収量は多く子実としての価値も高い。ロングフェローより穂が大きく子実の大きい品種にオノアがある。少し晩いがこれも著名な優良種である。



果樹ある家庭に

笑いあり

農園の一部に

果樹を植えて

環境を美化し

食生活を豊かに

しましょう

これからの果樹栽培と

種類、品種の選擇について

終戦後食生活改善への関心が高まるとともにその嗜好にもかなりの進展を来し、生活文化の向上とともに果実類の需要が増進の一途を辿っていることは真によるこばしいことである。

今主要な果実について昭和二十四年と二十七年の生産量を比較すると次のとおりである。

主要果実の種類別推定実収高

種別 昭和二十四年(率)

(単位千貫)

昭和二十七年(率)

みかん	六一、六七〇(一〇〇)	一三三、三六七(二一〇)
りんご	七八、七六七(一〇〇)	一四六、三六五(一九〇)
ぶどう	八、九六七(一〇〇)	一一、九三六(一四四)
なし	一七、一一〇(一〇〇)	二四、〇七三(一四〇)
桃	八、二一六(一〇〇)	一一、〇七三(一四六)
栗	六、〇六八(一〇〇)	七、六七四(一二六)
柿	五、〇六八(一〇〇)	六、七八九(一三三)

この表に示すとおり昭和二十四年から僅か四カ年の間主要果実の生産は、りんご、みかんは約二倍に、その他の果実は栗、柿を除いては何れも四〜五割の増加を示している。

しかしながらわが国の年間一人当消費量は五貫三百匁にして米国の生果実一四貫百匁、果実罐詰二貫四百匁、ジュース罐詰一貫八百匁、冷凍六百匁と合計一八貫九百匁と比較すれば、

はまだ三分の一以下であり、なお一層の生産を期待され、将来性はますます大きいと考えるべきである。

さて果樹の栽培を行うに当つては第一に考うべきことは、その地方に適した種類、品種を選定すべきことである。園芸作物中蔬菜、花等草丈の短い作物は人工によりかなり自然の制約を避け得るが、果樹類は一般に喬木のものが多く、その地方の自然条件に大きく左右されるので「適地適作」については充分留意することが必要である。

特に湿度の高い地方または冬季温度の低い地方及び季節風の強い地方は殊更のことである。一般に各種果樹は夏季乾燥するいわゆる夏乾の地帯において成績の良いものである。即ち枝梢の發育並びに充実に優れ、花芽の分化も良好で概して病害虫も少なく、適当とされているのである。

夏季湿潤地帯には一般に梨、李、米國系葡萄、苺、柿等を選定すべきである。

次に冬季気温の低下する地方では耐寒性の強い果樹即ち大果樹としては李、杏、千両、北海早生等の東洋系の梨、ホイットニー、アイオワビュティー、紅魁、早生旭、紅綾、旭等の耐寒性の強いリンゴ等がよい、小果樹ではグスベリ、木苺等が適し、その他の果樹についてはその地方に栽培生育しておるものは適するものと認めらるるも、まだ栽培を見ない新しい果樹については考慮すべきである。

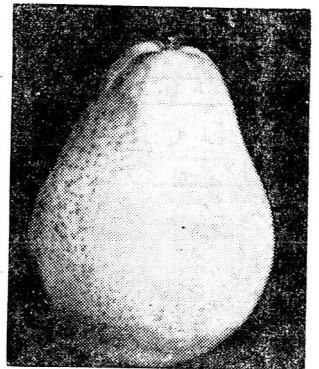
次に季節風の強い地方は地勢の良い畑または防風林のある所を選定すべきである。李、杏、梅、桃等の核果類は概して風に強くまた棚仕立の葡萄も風には強い。尤も十五号台風のような特殊の暴風は論外であり、かような暴風が再三襲来する地帯は当然大果樹の栽培は見合はずべきであるが、今年の暴風被害のみにて

果樹栽培を躊躇するものも考え過ぎである。

栽培すべき種類が決定したならば次いで品種について考えなければならぬ。品種の決定をおろそかにすると悔を将来まで残すこととなる。

即ち果樹栽培においてまことまつた取

益を挙げるのはいかに数年乃至十数年後となるために嗜好の交遷をも考慮し、盛果時において市場性の高い、世人の嗜好に合致する品種であることが望ましく、そのため色沢、品質には特に留意すべきである。



千兩(身不知)

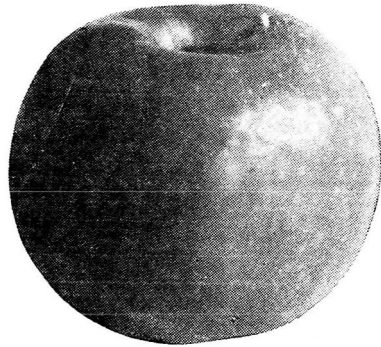
その他栽培品種の成熟期も考慮すべきで、早場地帯は早生種を相当多くとり入れ、早出しの特性を利用して高価に販売すべきであり、遅場地帯は品質の優秀な中生、晩生に主体をおくことと貯蔵に重点をおいて、晩生種の栽植割合を多くすべきである。一般に果実は各種を通じ早生種品質は劣り晩生種品質、風味、収量共に良好なことは他の作物と同様である。

さらに北方の低温地帯は夏季に収穫される果実は別として、晩生種のものには積算温度不足のため完熟せず、ために品質の優秀な果実を収穫し得ないものも多い。例えばりんごの国光は、まだしも洋梨のラ・フランス、葡萄のマスカットベリ、A、栗の銀寄、甘栗の利平、林栗等は何れも優良品種であるが、北海道では極く一部の地帯を除いては完熟せず、危険な品種である。

以上果樹の栽培に当つてその種類と品種の選定について留意すべき自然条件との関係を主に記したが、園芸作物についてはさらに積極的にしかも研究的態度を以て新しい優良品種を導入し常に前進を続けなければならない。結果収益を挙ぐるに相当年数を要するだけに一層留意すべきことである。

参考として最近の米国のりんご業界の品種の状況を紹介すると、スターキングデリシヤスが最高を誇り、レッドゴールド、ブラックジョナサン、ダブルレッドデリシヤス、紅生娘が多く栽培生産されており、これらについて検討して見るに第一に品質特に香気の良い品種であり無袋栽培に適するものが選ばれておることが伺われる。

次に当社で今春選定販売する果樹について概略を紹介すれば次のようである。種類、品種について検討されて御選定をお願いする次第であります。



レッドゴールド